

DA
2225
1999
410

戦後日本における大学教育の展開

— 学部・研究科の種類の変化を中心に —

1 9 9 9 年 1 2 月

張 磊

筑波大学大学院博士課程

教育学研究科教育基礎学専攻

寄	贈
張	平成
石	年
石	月
氏	日

00003536

目 次

	頁
序 章	1
第一節 研究の目的と課題	1
一. 研究の目的	1
二. 研究の課題	2
第二節 研究の方法	5
一. 大学教育の拡大の数量的把握	5
二. 専門分野の変化の把握	5
三. 事例の分析	6
四. 新種学部・研究科登場の背景の考察	7
第三節 本研究の意義	8
一. 先行研究のレビュー	8
二. 本研究の特色・意義	12
三. 本研究の構成	13
四. 本研究のキーワード	14
第一章 戦後日本における大学の大衆化	18
第一節 戦前日本の大学における専門分野の変化	18
一. 明治以降終戦までの学部の種類の変遷	18
二. 学部・学科の名称の増加に見られる専門分野の変化	20
三. 戦前の大学院制度と研究科の種類	25
第二節 戦後日本における大学の大衆化	30
一. 日本における大学大衆化の実態	30
二. 大学教育の規模の増大にみる時期区分とその特徴	47
第三節 大学院教育における規模の拡大と研究科の種類の変化	50
一. 全体的特徴	50
二. 専門分野の成長過程	54
三. 専門分野における学問の成長	57
四. 設置者別に見た専門分野の成長過程	59
五. 大学院への昇格	61
六. 伝統的分野における研究科設置の変化	63
第四節 大学の大衆化と専門分野の変化	70
一. 規模の拡大と種類の増加に見られる大衆化	71
二. 量的拡大と専門分野の増加	74
三. 大学教育における「多様化」・「高度化」・「個性化」	77
第二章 学部の種類の変化	80
第一節 学部の種類の変化 — その全体像 —	80
一. 新制大学発足期における新種学部の創設	82
二. 高度経済成長期における新種学部の創設	83
三. 抑制期における学部の種類の変化	85
四. 新しい拡充期における学際的学部の大量創出	86

第二節	分野別学部の種類の変化	88
一.	法文系分野	88
二.	理工系分野	92
三.	医学系分野	96
四.	教育系分野	99
五.	その他の分野	102
第三節	80年代後半以後に新登場した学部種類	104
一.	学部の種類の増加	104
二.	新種学部の創設とその学科構成	105
三.	学際的学部の大量登場	107
四.	新種学部の性格	108
第三章	修士課程研究科の種類の変化	112
第一節	修士課程研究科の種類の変化 — その全体像 —	112
一.	戦後新大学院制度確立期における修士課程研究科の種類	113
二.	高度経済成長期における修士課程研究科の種類の変化	114
三.	抑制期における修士課程研究科の種類の変化	115
四.	新しい拡充期における修士課程研究科の種類 of 激増	116
第二節	分野別修士課程研究科の種類の変化	118
一.	法文系分野	118
二.	理工系分野	119
三.	医学系分野	121
四.	教育系分野	121
五.	その他の分野	123
第三節	80年代後半以後に新登場した修士課程研究科の種類	124
一.	新種研究科の大量登場	124
二.	分野毎に新種研究科の創設	126
第四章	博士課程研究科の種類の変化	131
第一節	博士課程研究科の種類の変化 — その全体像 —	131
一.	戦後新大学院制度下の博士課程研究科の種類	131
二.	高度経済成長期における博士課程研究科の種類の変化	132
三.	抑制期における博士課程研究科の種類の変化	133
四.	新しい拡充期における博士課程研究科の種類 of 激増	134
五.	修士課程と博士課程との「格差」	135
第二節	分野別博士課程研究科の種類の変化	141
一.	法文系分野	141
二.	理工系分野	142
三.	医学系学分野	143
四.	教育系分野	143
五.	他分野	144
第三節	80年代後半以後に新登場した博士課程研究科	146
一.	新種研究科の大量登場	146
二.	分野毎に見た新種博士課程研究科の創設	147

第五章	組織的改組・再編に見られる大学の個性化 — 事例研究	151
第一節	旧制帝国大学を前身とする大学の事例 — 東京大学	151
一、	東京大学における学部・学科構成の変化	151
二、	東京大学における研究科設置の変化	153
	参考資料：80年代以降東京大学大学院における研究科・専攻の設置	159
第二節	旧制官立大学を前身とする大学の事例 — 東京工業大学・筑波大学	161
一、	東京工業大学	161
二、	筑波大学	163
第三節	旧制専門学校・高校を前身とする大学の事例 — 秋田大学・高知大学	168
一、	秋田大学	168
二、	高知大学	170
第四節	1986年以降登場した新種学部を創った大学の事例	
	— 吉備国際大学・川崎医療福祉大学・倉敷芸術科学大学	172
一、	吉備国際大学	172
二、	川崎医療福祉大学	173
三、	倉敷芸術科学大学	174
第五節	新設大学の事例 — 豊田工業大学	176
一、	大学の創設の発想	176
二、	創設した大学の特色	177
三、	抑制期において大学の創設に成功した戦略	179
第六節	規模の大拡張を遂げた私立大学の事例	
	— 早稲田大学・日本大学・東海大学	181
一、	早稲田大学	181
二、	日本大学	185
三、	東海大学	188
	参考資料1：学部・学科・専攻における設置の目的・理由（東海大学）	191
	参考資料2：東海大学における学部設置一覧	193
	参考資料3：東海大学大学院における研究科設置一覧	193
第七節	学部の増設があまり行われなかった大学の事例	
	— 小樽商科大学・和洋女子大学・都留文科大学	194
一、	小樽商科大学	194
二、	和洋女子大学	194
三、	都留文科大学	195
第六章	学部・研究科の種類の変遷と社会的背景	198
第一節	社会的・政策的変化	198
一、	時代の転換と学部の種類の変遷	198
二、	設置審査方針の転換と新種学部の大量創出	201
第二節	科学技術の飛躍的発展	203
一、	科学技術の発展における趨勢	203
二、	科学技術の進歩と新学問分野の開拓	204
三、	学術振興政策と新しい分野の創出	205
四、	学問的環境の変化と学部・研究科の種類の変遷	208

終章	212
第一節 本研究のまとめ	212
一. 大学大衆化についての「量的」把握	212
二. 専門分野の変化から捉えた大学教育の「多様化」・「高度化」・「個性化」	213
三. 学部・研究科の種類の变化の背景	215
第二節 日本の大学教育における今後の展望	220
一. 日本の大学教育における問題	220
二. 必要とされる改革と今後の発展の趨勢	224
第三節 中国の大学教育への示唆と今後の課題	227
一. 中国の大学教育への示唆	227
二. 今後の課題	236

表の部

表 1-1-1 東京大学創立期における学部・学科構成（1877年）（20頁）
表 1-1-2 帝大時期における学科構成（1892年）（21頁）
表 1-1-3 戦前期における「分合学部」を設置した大学一覧（昭和15年度）（21頁）
表 1-1-4 1917年帝国大学における分科大学（23頁）
表 1-1-5 1917年帝国大学における学科構成 — 学科（38類）（23頁）
表 1-1-6 1920年帝国大学における学科構成 — 学科（64類）（23頁）
表 1-1-7 1920年大学における学部構成（設置者別）（23頁）
表 1-1-8 私立大学の学部類別・学部数（戦前期）（24頁）
表 1-1-9 主な私立大学とその前身校一覧（25頁）
表 1-3-1 研究科における設置数の変化（1996年設置数の順番で）（56頁）
表 1-3-2 新しい分野における「学部→修士課程→博士課程」という昇進過程（58頁）
表 1-3-3 「修士→博士」昇進過程にかかる年数（工学と文学）（59頁）
表 1-3-4 「修士→博士」昇進過程にかかる年数（法学と経済学）（59頁）
表 1-3-5 「修士→博士」昇進過程にかかる年数（商学と経営学）（60頁）
表 1-3-6 工学研究科における「修士→博士」昇進過程の比較（国立と私立）（60頁）
表 1-3-7 大学院の設置までにかかった年数（61頁）
表 1-4-1 高等教育制度の段階移行に伴う変化の図式（70頁）
表 2-1-1 明治以来日本の大学における学部の種類の変遷（80頁）
表 2-1-2 戦前期における学部の設置状況（81頁）
表 2-1-3 名称として消滅した学部の種類（84頁）
表 2-3-1 新種学部の創設数（時期別）（104頁）
表 2-3-2 新登場した学部の学科構成（設置者別）（107頁）
表 2-3-3 設置後数が速やかに増加した学部（107頁）
表 2-3-4 新種学部における種類毎の設置数（108頁）
表 3-1-1 戦後新大学院制度確立期における研究科の種類（114頁）
表 3-1-2 高度経済成長期における研究科の種類（114頁）
表 3-1-3 抑制期における研究科の種類（115頁）
表 3-1-4 80年代後半以後に登場してきた研究科の種類（117頁）
表 3-2-1 理工系分野における修士課程研究科の創設（120頁）
表 3-2-2 教育分野における新しい修士課程研究科の創設（122頁）
表 3-3-1 新登場した研究科（設置者別）（124頁）
表 4-1-1 学問分野別大学間の格差（国立大学）（136頁）

表 4-1-2	博士課程研究科を有する公立大学 (137頁)
表 4-1-3	国立大学における研究科の設置状況 (138頁)
表 4-1-4	公立大学における研究科の設置状況 (139頁)
表 4-1-5	私立大学における研究科の設置状況 (139頁)
表 4-1-6	古い分野における研究科 (修士・博士課程) の設置 (140頁)
表 5-1-1	東京大学における学科の新設 (1949年以降) (152頁)
表 5-2-1	東京工業大学における学部・学科の設置 (161頁)
表 5-2-2	東京工業大学における研究科・専攻の設置 (162頁)
表 5-2-3	筑波大学への転換における専門分野の変化 (166頁)
表 5-2-4	東京教育大学大学院における研究科・専攻の設置 (167頁)
表 5-2-5	東京教育大学と筑波大学との専門分野での関連 (研究科の場合) (167頁)
表 5-2-6	筑波大学大学院研究科・専攻の設置 (博士課程) (167頁)
表 5-2-7	筑波大学大学院研究科・専攻の設置 (修士課程) (167頁)
表 5-3-1	秋田大学鉱山学部における学科の増設 (169頁)
表 5-3-2	高知大学における学部・学科の増設・改組 (171頁)
表 5-4-1	吉備国際大学における学部・学科構成 (172頁)
表 5-4-2	川崎医療福祉大学における学部・学科構成 (173頁)
表 5-4-3	倉敷芸術科学大学における学部・学科構成 (174頁)
表 5-4-4	私立大学における初年度納付金の比較 (分野別) (175頁)
表 5-6-1	早稲田大学における学部・学科の設置 (182頁)
表 5-6-2	早稲田大学における入学定員の推移 (182頁)
表 5-6-3	早稲田大学における研究科・専攻の設置 (184頁)
表 5-6-4	日本大学における学部・学科の設置 (186頁)
表 5-6-5	日本大学における研究科・専攻の設置 (186頁)
表 5-6-6	日本大学における学部入学定員の変化 (187頁)
表 5-7-1	小樽商科大学における学科構成の変化 (194頁)
表 5-7-2	和洋女子大学における学科構成の変化 (195頁)
表 6-2-1	工学部の学科構成における時代的特徴 (210頁)
表 6-2-2	実用化時期別技術製品分類 (210頁)
表 6-2-3	1975年 (昭和50) 年度まで情報関係学科等設置状況 (211頁)
表 6-2-4	1975年 (昭和50) 年度まで環境・公害関係学科等設置状況 (211頁)
表 6-2-5	平成6年度文部省重点研究領域研究の83件の研究領域 (略称名) (211頁)
表 7-3-1	日本の大学在学者数における私立大学の割合 (235頁)
表 7-3-2	日本の大学における私立大学の比率 (その一例) (235頁)

図の部

図 1	大学・学部在学者数の推移 (31頁)
図 2～ 5	人文科学、社会科学、教育、家政等分野在学者数の推移 (32頁)
図 6～ 9	工学、理学、農学、保健分野在学者数の推移 (33頁)
図10	学部の設置 (1949～1996) (35頁)
図11～15	法、経済、工、文、理工等学部の設置 (1949～1996) (37頁)
図16～20	社会、音楽、経営、人文、歯等学部の設置 (1949～1996) (38頁)
図21～25	理、外国語、医、薬、商等学部の設置 (1949～1996) (39頁)
図26～30	家政、農、文理、学芸、教育等学部の設置 (1949～1996) (40頁)
図31～32	学部の種類の変化、新種学部の創設 (1949～1996) (41頁)

- 図33 大学院在学者数の推移 (42頁)
- 図34～35 修士課程在学者数の推移、博士課程在学者数の推移 (43頁)
- 図36～38 研究科の設置、修士課程研究科数の推移、博士課程研究科数の推移 (44頁)
- 図39～40 研究科の種類の変化、新種研究科の創設 (修士課程) (46頁)
- 図41 新種研究科の創設 (博士課程) (47頁)
- 図42～44 大学・学部の設置 (毎年)、大学院・研究科の設置 (毎年)、
大学・大学院・学部・研究科の設置 (毎年) (49頁)
- 図45～48 大学院：在学者数・研究科数の推移、在学者数・研究科の種類数の推移、
研究科数・研究科の種類数の推移、在学者数・研究科数・研究科の種類数の推移 (52頁)
- 図49～52 研究科在学者数・研究科の設置数 (修士課程、博士課程)、
研究科在学者数・研究科の種類数 (修士課程、博士課程) (53頁)
- 図53～54 研究科の設置数・研究科の種類数 (修士課程、博士課程) (54頁)
- 図55～58 学部・研究科 (修士課程、博士課程) の設置
(法学、文学、経済学、工学) (68頁)
- 図59～62 学部・研究科 (修士課程、博士課程) の設置
(農学、経営学、商学、教育学) (69頁)
- 図63～66 学部数・学部の種類数の推移、
研究科数・研究科の種類数の推移
学部在学者数・学部の種類数の推移
大学院在学者数・研究科の種類数の推移 (73頁)

付録の部

- 1 : (1～3頁) 1 - 01 新制大学発足後登場した学部 (1950～1985) (42種類)
1 - 02 学部の種類の増加 (1986～1996) (86種類)
- 2 : (4～9頁) 2 - 01 修士課程研究科の種類数の増加 (1950～1954) (28種類)
2 - 02 修士課程研究科の種類数の増加 (1955～1973) (27種類)
2 - 03 修士課程研究科の種類数の増加 (1973～1985) (28種類)
2 - 04 修士課程研究科の種類数の増加 (1986～1996) (100種類)
- 3 : (10～13頁) 3 - 01 1953年登場した博士課程研究科 (20種類)
3 - 02 博士課程研究科の種類数の増加 (1954～1973) (19種類)
3 - 03 博士課程研究科の種類数の増加 (1974～1985) (31種類)
3 - 04 博士課程研究科の種類数の増加 (1986～1996) (74種類)
- 4 : (14～18頁) 4 - 01 専門分野における「学部→修士課程→博士課程」の昇進
4 - 02 専門分野における「学部→修士課程」の昇進
4 - 03 専門分野における「修士課程→博士課程」の昇進
- 5 : (19～31頁) 5 - 01 「分野別新種学部の登場 (1877～1996)」
5 - 02 「分野別新種研究科 (修士課程) の登場 (1950～1996)」
5 - 03 「分野別新種研究科 (博士課程) の登場 (1953～1996)」

参考図書 (32～34頁)

参考図 (35～38頁) 主な研究科の設置系列図 (設置者別)